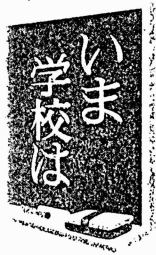
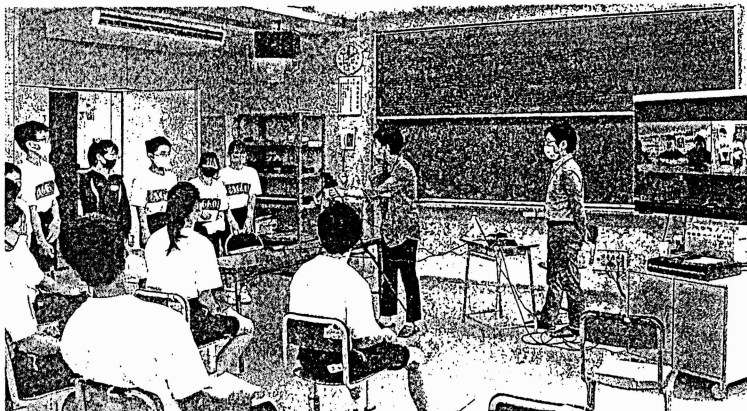


オンラインで異文化交流 (上尾市立 上尾中学校)

モニター越しのロッキヤー高校中等部の生徒に向かって、学校生活について説明する上尾中学の生徒(6月、上尾市立上尾中学校で)



海外体験生徒に好評

「We will announce about cleaning time」
「We have lots of questions. This is very different」

上尾市立上尾中学校で6月、国際交流の授業が行われた。同市が3月から行っているオンライン交流の環境で、教室のモニターに豪

徒が映し出され、英語でコミュニケーションがとられた。

参加した約35人の1年生は、外国語指導助手(ALT)の助けを借りながら、部活動や制服、学校の規則などを紹介。互いに質問し合いながら約30分間、異文化交流を楽しんだ。

上尾市は1994年から毎年夏、市内の中学生を同高校のある豪クイーンズランド州ロッキヤーバレー市に派遣し、ホームステイなどを通じて異文化交流を図ってきた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、昨年からの派遣事業は中止に。そこで、上尾市教育委員会はオンラインでロッキヤー高校の生徒と交流することを提案し、同高校も提案に応じてオンライン交流がスタートした。

3月の交流会では英語と日本語で、自己紹介や日常会話などが行われた。今回のテーマは学校生活で、両校の生徒が発表した。すでに同高校とオンラインで交流したのは上尾市の市立中学校3校で、市教委は今後、

参加校を増やしていきたい考えた。

オンライン交流は生徒からも好評で、早川怜穂君(13)は「盛んなスポーツや人気のゲームなど、日本とは違うことに驚いた。海外文化について興味があった」と笑顔を見せた。市教委の担当者は、「これまで派遣事業で一部の生徒しか体験できなかった同世代の外国人との交流を、インターネットを通してより多くの生徒が体験できた。コロナ禍でもプラスになることはある」と話す。

同高校のスケジュールに合わせ、次の交流は今年の夏以降に行われる予定だ。

読売新聞埼玉版 7月30日(金) 掲載